

横浜市環境管理計画 2019年度の推進状況 について（報告）

毎年度、横浜市環境管理計画の推進状況を、年次報告書「横浜の環境」としてまとめています。
本日御意見をいただき、年度内に公表していきます。

1 年次報告書「横浜の環境」について

- 横浜の環境の状況と、横浜市環境管理計画（※）に基づき実施された施策の状況等をまとめ、公表
※「横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例」に基づき策定した環境分野の総合計画
- 環境管理計画に掲げる基本政策、基本施策ごとに、環境の状況を示すデータや、主な取組の実績・成果を記載
- 図表や写真を多く掲載し、視覚的にわかりやすく、市民に親しみやすい冊子及び概要版を作成
- 資料編として、ウェブサイトにて経年データ等を掲載。今年度版では、二次利用可能なオープンデータ化を推進

2 環境管理計画の推進状況

- SDGs未来都市として、市の総合計画である横浜市中期4か年計画と連動し、ガーデンシティ横浜やグリーンインフラの活用などの花と緑にあふれる環境先進都市を目指した環境施策を推進
- 環境管理計画と、地球温暖化対策実行計画・横浜みどりアップ計画・ヨコハマ3R夢プラン推進計画などの分野別計画に基づき、多様な主体と連携しながら総合的に取組を推進
- 温室効果ガス排出量は22%減（2013年度比）と着実な成果が出ているほか、緑地の保全や環境教育など生物多様性保全につながる取組も進展
- 環境に関心があり行動している市民の割合は84.9%。経営戦略などに環境への配慮や目標を盛り込んでいる企業は、大企業で75.0%、中小企業で32.8%（2020年度環境に関する市民・企業意識調査の結果から）
- 市民生活・経済に新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出ている。くらし・経済の復興と環境課題への対応の両立が求められる

環境管理計画の推進を通じたSDGs達成への貢献 p1

環境管理計画では、3つの総合的な視点（人・地域社会、経済、まちづくり）を持ち、多様な主体と連携して取組を一層進めることで、総合的な環境施策を実現し、SDGs達成に貢献する、としている。SDGsの目標年である2030年まであと10年となる2020年の年次報告書では、特集において、SDGsの推進力となるゴールと関連付けて3つのテーマを設定。テーマごとに2019年度の実績を振り返り、年次報告書を、残された10年の足掛かりの一つとしていきたい。

◆ 特集1 パートナーシップを大きな推進力に

全ての目標達成に欠かせないパートナーシップ。横浜ならではのパートナーシップの精神と、多様化する形・取組を紹介する。



花壇づくりに参加する公園愛護会の皆さん（山下公園）

◆ 特集2 「環境」の視点でみる京浜臨海部

産業や経済は目標達成に必要なエンジン。従来からの製造業に加え、研究開発拠点としても成長する京浜臨海部の取組を紹介する。



提供：(株)ユーグレナ
京浜臨海部で製造されたバイオ燃料で走るバス

◆ 特集3 動物園で実感する生物多様性

SDGs推進の基礎は教育であり、生物多様性保全は持続可能な社会に不可欠の取組。多くの市民が訪れる動物園の取組を紹介する。



よこはま動物園ズーラシアでの混合展示

3 各政策・施策の取組状況

基本政策1 環境と人・地域社会 環境にやさしいライフスタイルの実践や地域の環境活動を支援 p16

- 愛護会などの環境活動団体による、良好な環境の保全活動を支援
- 各種表彰制度により、地域で積極的に環境保全の取組を行う事業者・団体を表彰
- 多くの市民の環境にやさしいライフスタイルの実践につなげるため、スポーツチーム等と連携した親しみやすい広報や、SNSによる情報発信を推進
- 18区役所では、地域特性を踏まえた取組を展開

表 環境活動団体数（2019年度末時点）

公園愛護会	2,499 団体
水辺愛護会	94 団体
市民の森愛護会	32 団体
ふれあいの樹林愛護会	12 団体
森づくり活動団体	30 団体
よこはま緑の推進団体	812 団体
ハマロードサポーター	534 団体



荻子田太陽公園愛護会が整備したバラ園（青葉区）



横浜DeNAベイスターズと連携した環境行動啓発ポスター

基本政策2 環境と経済 環境分野の取組による市内経済の活性化と地域の賑わいづくりを推進 p22

- 環境に配慮した事業活動の推進に向け、連携協定に基づき青森県横浜町の風力発電所からの電気を市内企業へ初供給
- 環境・エネルギー分野での需要拡大に向け、市民・事業者に対する省エネ設備・機器などの導入促進、燃料電池自動車の普及を促進
- 上下水道や廃棄物分野などで市のノウハウと市内企業等の環境技術を生かし、新興国の課題解決と市内企業の海外インフラビジネス展開を支援
- 美しい都市景観や緑豊かな里山などを生かしたイベント開催などにより、さらなる魅力・賑わいを創出し、街の活性化に寄与



下水道台帳整備に向けた浸水箇所の現地調査（ベトナム国ハノイ市）



ガーデンツーリズム登録制度第1号となったガーデンネックレス横浜（山下公園）

基本政策3 環境とまちづくり 環境と調和・共生した、環境にやさしく災害に強いまちづくりを推進 p28

- 相鉄・JR直通線の開業や高速道路（横浜北西線）の開通などの交通ネットワーク形成、自転車利用環境整備が進展
- 臨海部ではウォーターフロントの新たな拠点整備、郊外部では持続可能な魅力あるまちづくりのほか、米軍基地跡地（旧上瀬谷通信施設）の土地利用計画を策定
- 豊かな海づくりに向け、河川や下水道施設等でマイクロプラスチック調査を実施
- 環境配慮型建築物の普及を推進。新市庁舎はCASBEE横浜認証制度「Sランク」を取得
- 公園における公民連携の取組を推進
- 雨水幹線等の整備、雨水をゆっくり流すグリーンインフラの取組を推進

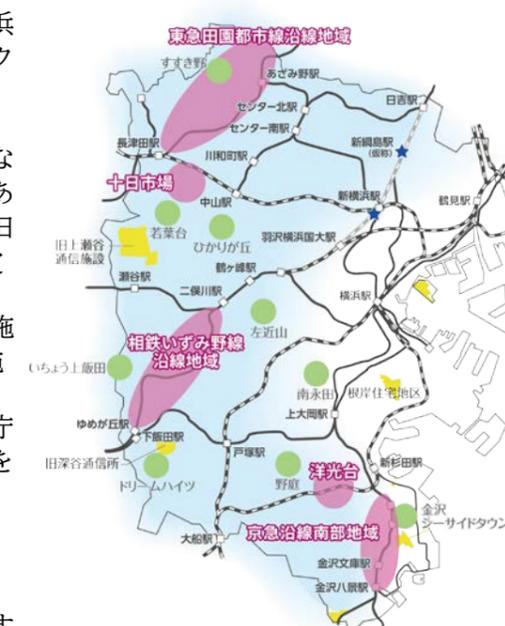


図 郊外部のまちづくり



横浜都心部コミュニティサイクル：登録者数115,389人



雨水を引き込みゆっくり浸透させ植栽の良好な生育に活用するグリーンインフラの取組（港北区）

環境目標の達成状況

値は2018年度、()内は2017年度値

温室効果ガス排出量 1,677 (1,713) 万t-CO₂ 2013年度比 22%減
 エネルギー消費量 225 (230) PJ 2013年度比 11%減

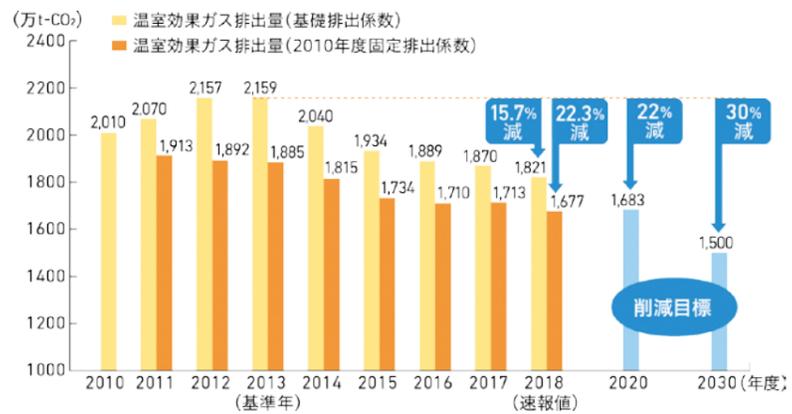


図 横浜地域の温室効果ガス排出量の状況と削減目標



燃料電池自動車 (FCV)
 : 市内のFCV登録台数 150台



SDGsに貢献する暮らしを体験できる
 モデルハウス (港北区)

環境目標の達成状況

()内は前年度値

緑地保全制度による新規指定 47.2 (50.0) ha
 生物多様性保全に配慮した市民団体や企業への表彰 19 (12) 団体
 地域や国内に生息する希少動物の保全・繁殖を推進

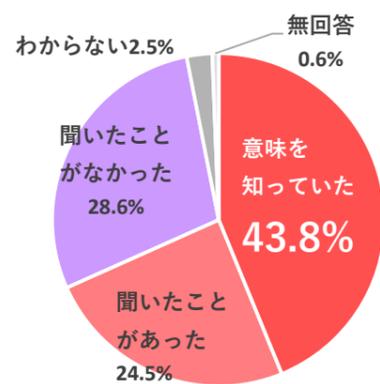


図 生物多様性の認知度
 (出典) 2020年度環境に関する市民意識調査



小学生が参加する生き物調査
 : 参加者11,511人



希少動物の保全
 (よこはま動物園ズーラシアで
 2019年に誕生したコウノトリ)

環境目標の達成状況

()内は前年度値

環境に関心があり、行動している市民 84.9 (82.1) %
 食品ロス削減講習会参加者 約2,600 (約2,500) 人
 環境教育出前講座参加者 8,409 (7,165) 人
 SDGsと結びつくESDを教育課程に位置づけ
 教育活動を行っている学校数 332 校

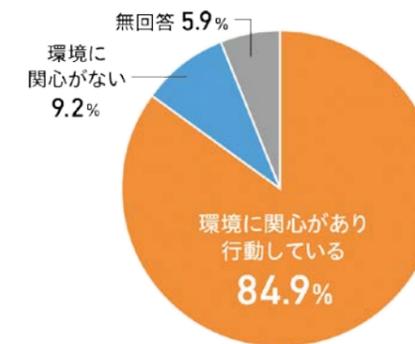


図 環境に関心があり、行動している
 市民の割合
 (出典) 2020年度環境に関する市民意識調査



環境教育出前講座
 マイクロプラスチック観察



ESD児童生徒交流報告会での
 ワークショップ

環境目標の達成状況

()内は前年度値、緑被率は2014年度調査値

緑被率 27.8 (28.8) %
 緑地保全制度による新規指定 47.2 (50.0) ha
 宅地内雨水貯留タンク設置助成 108 (141) 件
 道路・宅地への雨水浸透ます設置※ 19,078 (18,607) 個
 ※ 下水道事業で設置したもの (2019年度末時点)

表 水・緑環境の状況 (年度末時点)		
都市公園	2,695	公園
街路樹	132,265	本
近郊緑地保全区域	1,096	ha
近郊緑地特別保全地区	201.6	ha
特別緑地保全地区	507.1	ha
横浜自然観察の森	44.4	ha
市民の森	550	ha
緑地保存地区※	206.7	ha
源流の森保存地区※	238.2	ha
水辺拠点	40	か所

※ 2019年4月1日時点



市沢町特別緑地保全地区 (旭区)

環境目標の達成状況

()内は前年度値

市民・企業等と連携した
 地産地消の推進 41 (43) 件
 市内産農畜産物の購入機会の拡大 43 (51) 件
 農業者団体※による維持管理面積 641.7 (660.8) ha
 ※まとまりのある農地を維持する農業者団体
 市民ニーズに合わせた農園面積 85.0 (81.1) ha
 (2019年度末時点)



農ある横浜めぐりツアーでのサツマイモ収穫体験 (泉区)

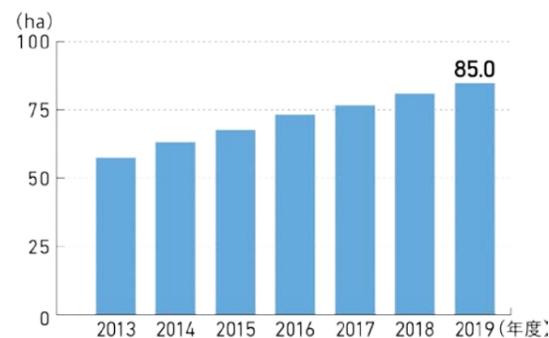


図 市民ニーズに合わせた農園面積の推移

環境目標の達成状況

()内は前年度値

ごみと資源の総量 122.1 (119.5) 万t
 2009年度比4.3%減
 ごみ処理に伴う
 温室効果ガス排出量 26.0 (29.1) 万t-CO₂
 2009年度比7.8%減
 産業廃棄物最終処分量 45 (21.9) 万t
 (2018年度)
 災害廃棄物に関する協力協定 28 (25) 件
 (2019年度末時点)



横浜駅西口における美化活動 (西区)

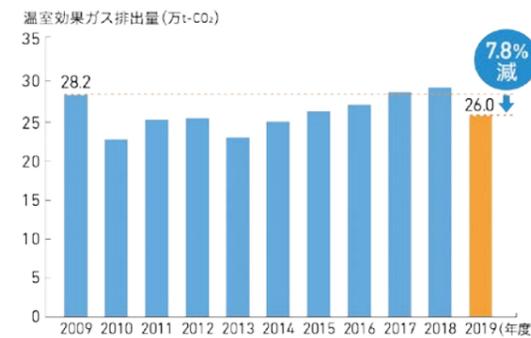


図 ごみ処理に伴う温室効果ガス排出量

環境目標の達成状況

○/○は達成地点数/調査地点数

大気 二酸化窒素 27/28※、光化学オキシダント 0/19
 水質 河川 | BOD 20/21
 海域 | COD 6/7、全窒素 6/7、全りん 4/7
 新幹線騒音 6/12
 道路交通騒音 (面的評価) 83%
 光化学スモッグ注意報発令 3回/年
 生物指標による水質評価 35/38 (河川)

※ 環境基準の下限值(1時間値の日平均値0.04ppm)で評価。
 上限値には全地点で達成

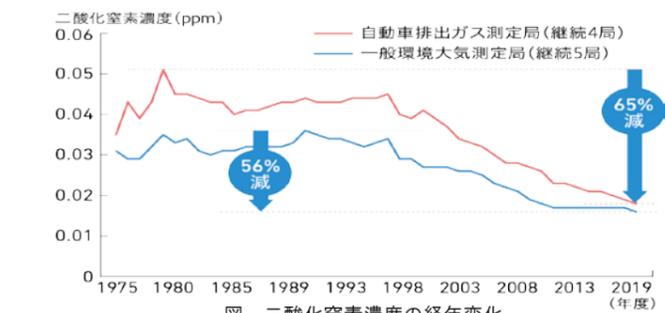


図 二酸化窒素濃度の経年変化

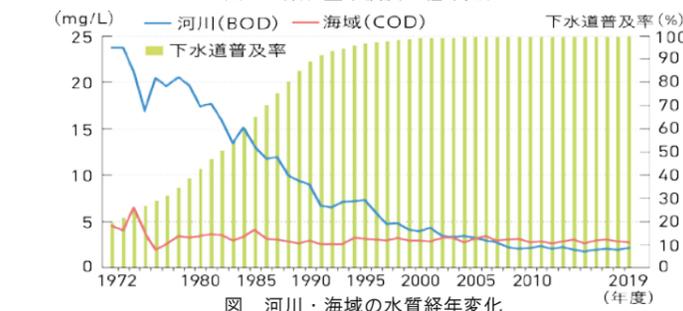


図 河川・海域の水質経年変化